

第1回 令和8年1月19日

(商工業、建設業、経済、金融、労働分野)

(佐賀県商工会議所連合会)

- 佐賀県立大学（仮称）は、新たな人材育成機関として経済界も期待。インターン受入や講師派遣など県と連携して県内就職率の向上につなげたい。
- 小規模事業者には価格転嫁の仕組みができていない。引き続き生産性向上や人材確保の補助金による支援をお願いしたい。
- 佐賀県産業スマート化センターによる地元企業と ICT 企業のマッチングなど、引き続き DX の取組に力を入れていただきたい。
- 2033 年に九州佐賀国際空港の滑走路延長が実現すれば、東南アジア向け旅客便や国際貨物の輸送が可能になる。海外航空会社への営業、定期便の新規開拓に力を入れていただきたい。
- 佐賀市が主導する佐賀市南部エリア開発構想は非常に大きなプロジェクト。佐賀市から支援要請があれば、ぜひ寄り添っていただきたい。
- 西九州新幹線は、ルートや財源、並行在来線の問題のほか、佐賀県経済に中長期的にどのようにプラスになるかというところが重要。経済界は佐賀県に寄り添って対応していきたい。

(佐賀商工会議所女性会)

- 佐賀は平坦地に樹木が少なく、マンション建設等では駐車場が優先され緑が減少している。緑は快適な生活環境だけでなく、街中にあれば交流の場にもなる。未来の子どもたちのためにも緑豊かな街づくりを進めてほしい。

(唐津商工会議所)

- コスメティック構想の更なる推進を期待。コスメの裾野拡大に向けて、観光や食との連携は重要。コスメツーリズムや佐賀県独自のミシュランガイドのような取組も民間ベースを含めて実施を検討いただきたい。

（有田商工会議所）

- 有田焼事業者の多くは5人未満の小規模事業者であり、後継者不足や人手不足が長年の課題。これらの課題解決に向け、今後も取り組む必要がある。
- 有田焼の売上が減少する中、原材料（陶石等）や人件費の上昇により、原価が高騰している。これは佐賀県に限った課題ではないので、熊本県や長崎県と共同した施策が必要ではないか。
- 陶土屋への補助は非常に有効。更なる自治体の協力、支援をお願いしたい。
- 設備投資をする体力が現状ないので、民間金融機関において融資の支援を検討いただきたい。
- ARITAプロジェクトが始まり、九州陶磁文化館を中心に予算措置がなされている。今後は観光面で有田の街中に派生するような幅広い支援を期待。

（佐賀県商工会連合会）

- 物価高騰や人手不足、円安や国が推し進める賃上げなどのコスト増に対して、価格転嫁を半分もできていない厳しい経営状況。本業で雇いたいアルバイトしか雇えない状態は、今後の事業承継にも関わってくる課題。
- 小規模事業者や中小企業においても、ITやSNSの活用、キャッシュレス対応、AI活用など様々な取組が求められるが、これらに対応できる知見を持つ人材が不足している。県との人事交流含め、人への支援をお願いしたい。

（佐賀県商工会女性部連合会）

- 慢性的な人手不足が課題。女性の社会進出が進む中、女性が働きやすい職場づくりや柔軟な働き方の推進が必要。
- 女性の起業支援については、創業を決意し準備を始める前の段階から事業が安定するまでの数年間にわたり支援をお願いしたい。
- 女性部では地域に根ざした活動を積極的に実施している。明るく活気あるまちづくりには人と人のつながりが重要。地域コミュニティが増えることで、子どもから高齢者まで皆が安心して生活でき、地域活性化につながる。

（佐賀県商工会青年部連合会）

- 青年団体は人が少なくなって地域貢献ができなくなっている。地域をもっとよくする活動を行うためにも青年団体のイメージアップを図り、仲間を増やしていく必要がある。県の協力も得ながら、前へ進めていきたい。

（佐賀県中小企業団体中央会）

- 諸富家具振興協同組合やサガコレクティブの代表も任されているが、どの産業も人材の安定確保、人材育成が共通課題となっている。
- サガコレクティブでは環境に配慮したカーボンニュートラルの取組を強化。酒や素麺、海苔など伝統産業は自然環境が整わないといいものが作れない。
- 佐賀のブランド力を世界へ発信していきたい。知ってもらい、来てもらい現場を見てもらうことで、こだわりや職人の意気込みが伝わると思うので、メディアに取り上げられるよう支援いただきたい。
- 次の世代へこの産業をつないでいくための努力を続けていくので、日本初・世界初となるものづくりへの支援もお願いしたい。

（佐賀県中小企業青年中央会）

- 造園協同組合の青年部員も減少傾向。企業の後継者は青年部に入るが、それだけでは継続が難しい。企業を訪問し、若手への声掛けを行っている。
- 若手の技能向上のため、技能講習など行っている。20 年ほど前に技能オリンピックに出場したことがあるが、これからの若者にも経験してほしいので、技能オリンピックの SAGA アリーナへの誘致をお願いしたい。

（佐賀県工業連合会）

- 工業会の一番の課題は人手不足。いろんな人に佐賀に住んで、働いてもらいたい。今以上に佐賀の働く環境の問題を解決していくことが必要。
- 子どもの頃から佐賀を誇りに思える教育をもっと実施いただきたい。日新小学校で反射炉教育を行っている。こうした地元のことをもっと知ってもらう取組を県全体に広げて欲しい。

（公益社団法人佐賀県トラック協会）

- 物流業界は価格転嫁が最も進んでいない。引き続き支援をお願いしたい。
- トラックドライバーは50歳～60歳が中心。外国人材も含めて、引き続き人材確保の支援をお願いしたい。
- 大型トラックの走行を踏まえ道路等のインフラ整備の拡充をお願いしたい。
- 大規模自然災害時には物流が非常に大事。緊急物資輸送の拠点については、対応をお願いしたい。
- これから燃料は、SDGsの観点からバイオ燃料等が変わっていく。県としても早めに色々取り組んでいただきたい。
- サガンスギは県有林だけではなく市有林にも植え替え促進をお願いしたい。

（佐賀経済同友会）

- 九州新幹線西九州ルートの問題は、これまでの経緯等を踏まえた佐賀県の対応は理解している。一方で、相当な時間が経過し社会情勢の変化も激しい中、そろそろルートや予算など政治判断が求められる時期に入ってきていると感じている。政治的な交渉力を高めるにしていきたい。
- 佐賀県立大学（仮称）については、少子高齢化の中で4年制大学の必要性に関する議論もあるが、若者の流出を踏まえれば、佐賀県に4年制大学がまだ必要だというのは明らか。高等教育に関するシンポジウムを考えているため、ご協力をお願いしたい。

（公益社団法人日本青年会議所佐賀ブロック協議会）

- 青年会議所は会員減少が一番の課題。地域が好きで佐賀を盛り上げたいと皆が思っているので、イメージアップ含め事業への支援をお願いしたい。
- 建設業は職人不足が深刻。法改正等の影響もあり、なかなか一人親方の大工が家を建てられない状況。職人支援、手続き支援など建設業への支援をお願いしたい。

（一般社団法人佐賀県銀行協会）

- 特殊詐欺を防ぐためには共助・公助による対応と子どもの頃からの教育が必要。昨年から高校生を対象に金融リテラシー向上出前教室をしているが、学校現場が忙しすぎて時間が取れない。県から後押しをお願いしたい。

（佐賀県信用金庫協会）

- 人手不足、人件費高騰が問題。信用保証協会や引継ぎ支援センターなど、各団体と協力して動いている。協会等で相談を受ける際、佐賀-唐津だと距離があり移動時間がかかる。佐賀唐津道路ができると相談しやすくなる。

（佐賀県信用組合協会）

- 中小企業や中小零細企業は事業承継の問題に直面している。
- 佐賀で優秀な人材を育成してほしい。佐賀県立大学（仮称）は良いと思うが、小中学生の学力は全国最下位に近いので、小中学生からの育成が必要。
- 高齢者がいきいきと生活するためには、まずは健康の維持が重要。県立大学において、高齢者の健康づくりを支援する講座等の検討をお願いしたい。

（日本労働組合総連合会佐賀県連合会）

- 特定最低賃金が今回改定の必要なしと判断がなされたことは大変残念。次年度の佐賀県最低賃金審議会の中でしっかり課題解決していきたい。
- 佐賀県の伝統技術や産業、地域を守る人材・労働者を確保するためには、賃金も含めた労働環境の整備が重要。

（佐賀県職業能力開発協会）

- 技能オリンピックは、愛知県名古屋市開催が多く、誘致のハードルが高いと思うが、ぜひ誘致いただきたい。
- 企業誘致をより積極的に進めてもらいたい。そのためには、工業団地の造成が必要であるが、農地転用が課題。

(一般社団法人佐賀県建設業協会)

- 建設業界は担い手の確保や高齢化が課題。土木展の開催により、建設業界の意義を感じていただくようになり、就職先としても認知されてきている一方、55歳以上が4割弱。10年後にはインフラを守る人が減っていく。
- 県には施工の平準化をしてもらっているが、市町の施工の平準化に関して、県から市町に指導していただきたい。
- 佐賀県と福岡県の設計労務単価は、普通作業員で1日3,300円の差があるので、県境の建設会社は作業員確保に苦労している。
- 郷土愛を高めてもらっており、県内就職率は上がっている。県内の学校を卒業した子どもたちが地元の建設会社で働けるよう引き続きお願いしたい。

(一般社団法人佐賀県造園建設業協会)

- 次期施策方針の大項目に「緑あふれる街づくり」「街なかの花と緑」「グリーンインフラ」についての記載をできれば加えてほしい。2年後に緑化フェアの開催が決定している。これを機に、人々が幸せに暮らせる緑あふれる環境づくりが必要。
- 地域の空間を緑にデザインする、まちを彩るグリーンインフラによる人々の豊かさの実現を目指していただきたい。

(一般社団法人佐賀県建築士会)

- 佐賀県版の気候風土適応住宅の基準等を定めて、さがすたいとして、佐賀の気候風土に合った快適な住宅づくりを進めていきたい。
- 安心・安全な住まいづくりのため、耐震化、カーボンニュートラル、文化財保護や有効利用、県産木材の利用促進、空き家対策など、今後も県と協力し取り組んでいきたい。

(一般社団法人佐賀県産業資源循環協会)

- これからの時代は循環経済の社会であり、産業廃棄物は広域的に移動・リサイクルされ資源化される一方で、最終処分も必要。県民への処理施設の安全性等の啓発と処理業者への適正処理の更なる指導をお願いしたい。

- 県民が安心して、産業処理施設を受け入れ、処理業者が安定して仕事を続けられる社会を実現してほしい。

(佐賀県ソフトウェア協同組合)

- 求めるスキルを持つ人材の確保が難しい。佐賀県立大学（仮称）では、プログラム開発等の実践的なカリキュラムにより、学生がスキル習得や実績づくりができる環境の整備を図ってほしい。
- リーダー、マネジメント層の育成支援が追い付いていない。AI の活用含め、研修など人材育成の支援を、引き続きお願いしたい。
- 最新技術に対応できる人材を育成できていない。最先端の ICT 行政を打ち出してもらえれば、地元企業がそこに参加し技術習得につながる。
- UJI 支援、移住フェアなどは役立っているので、引き続きお願いしたい。

(千紫万紅)

- 佐賀県はスタートアップ支援が手厚く、佐賀で起業したいとの声もある。引き続き支援強化をお願いしたい。
- 跡継ぎ問題に関して、スタートアップ業界も前向きに取り組んでいるので、様々なところとタッグを組んで取組を進めてもらいたい。
- 廃校活用委員をしており、イベントで廃校を活用したいが許可が下りない。今あるものを生かして景観を守るのも大事。廃校活用も尽力いただきたい。
- 佐賀県は花の生産は少ないが、「ロゼバルーン」という佐賀県でしか作れない菊がある。ミカンやイチゴだけでなく、花も PR してもらいたい。
- 佐賀県は推し活、聖地巡礼で訪れたい都道府県ランキング 1 位。推し活がきっかけで佐賀に移住してきた人もいる。もっと生かしてみてもどうか。

(東京佐賀県人会)

- 佐賀県出身者の佐賀愛がすごく強いが、県外からきても稼げる産業が佐賀県に少ないため、若者も定着しないし、戻ってこないことが課題。

- 今の産業を発展させながら、10～20年後のあり方を考えて産業戦略を深く練っていくことが重要。特にDXの推進は大事。AIの波は止められない。今後はAIを活用して人材不足を解消することを考えるべきではないか。
- 企業誘致をするなら外資系企業がいい。外資系は儲かるとわかると多額の投資があり、雇用も生まれる。
- 若い事業者を最先端の国へ派遣して、勉強させてみてはどうか。

(福岡市佐賀県人会)

- さが海苔は、県内で生産から販売まで一体的に行うことで成長が見込めると思い県漁連等と取り組んだが、様々な課題があり実現には至らなかった。官民一体で検討することで、実現の可能性があるのではないか。
- 佐賀駅周辺の活性化に向け、再開発の促進のため、規制緩和等も含めた検討をお願いしたい。